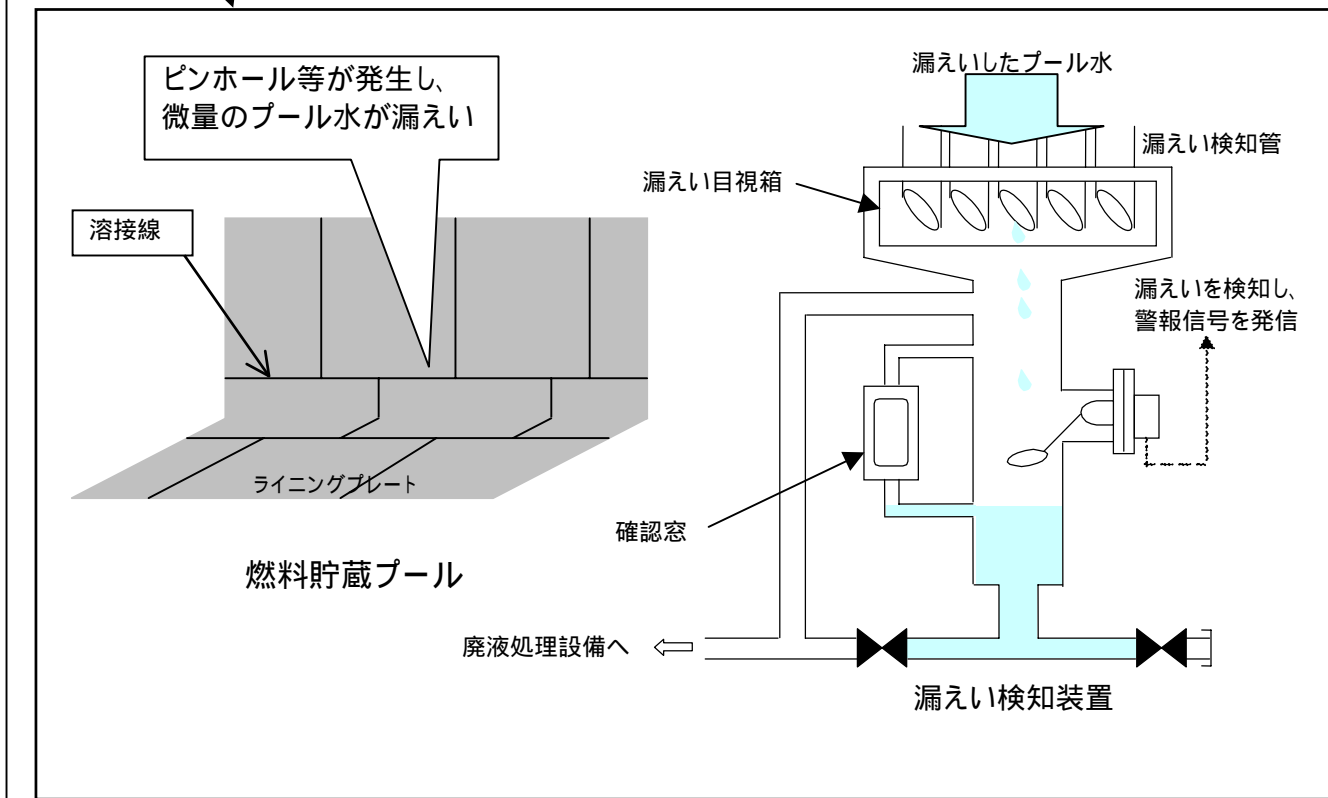
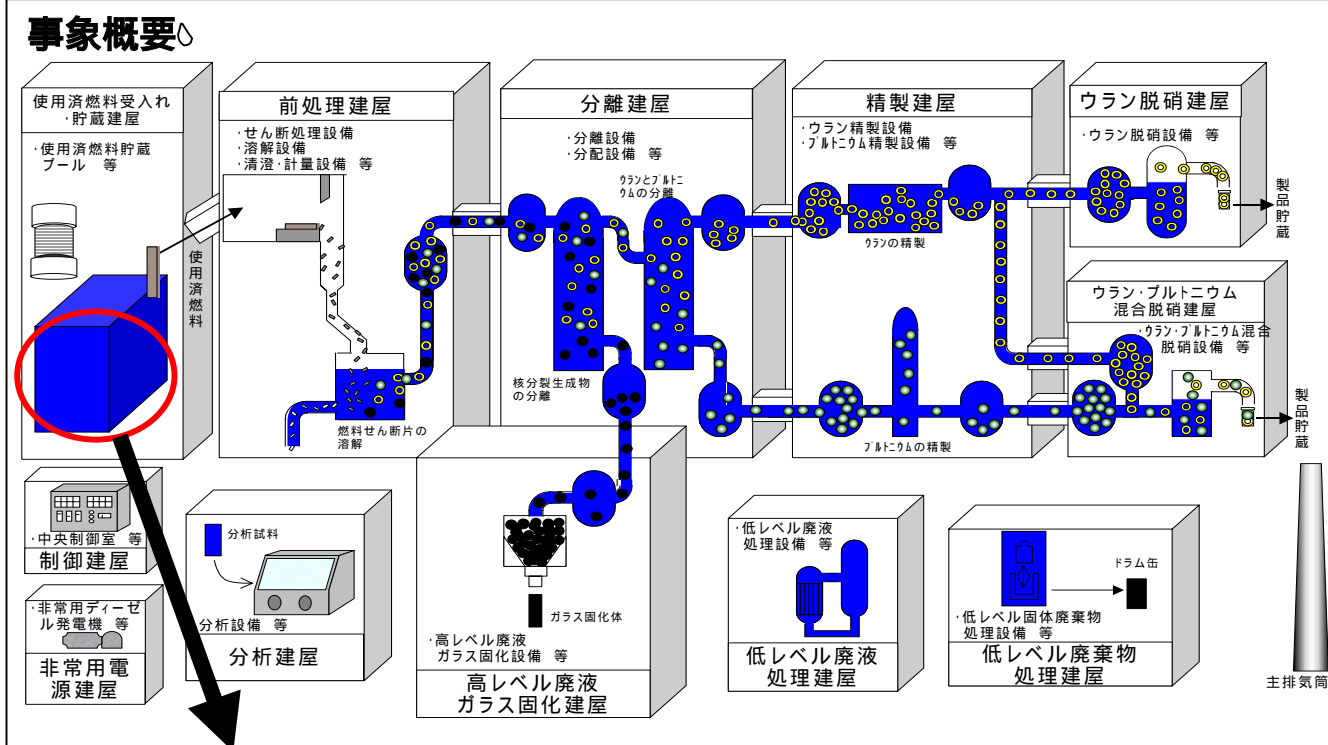


再処理工場で発生が予想されるトラブル等とその対応

(No.2-16)

| <p>件名</p> | <p>燃料貯蔵プール等からのプール水の微量漏えい</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--------|-----------|-------------------|------|--|--|-----|-----|-----|-----------|-------------------|------|--|--|--|--|--|--|
| <p>事象の概要</p> <p>(1) 発生場所: 機器</p> <p>(2) 設備の概要</p> <p>(3) 発生の状況</p> <p>(4) 概要</p> <p>(5) 原因</p> | <p>使用済燃料受入れ・貯蔵建屋：燃料貯蔵プール、ピット、水路</p> <p>原子力発電所において発生した使用済燃料を受入れ、使用済燃料の放射能を弱めるためせん断処理するまでの間、一時的に冷却・貯蔵する設備。燃料貯蔵プール等は耐食性に優れた材料や溶接により、漏えいし難い構造としている。出水が発生したときには、漏えい検知溝を通じて漏えい検知装置内により確認できる。</p> <p>運転中（使用済燃料の貯蔵中）</p> <p>燃料貯蔵プール等の溶接部においてピンホール（微小な穴）等が発生し、プール水が漏えいして漏えい検知装置内で僅かな出水を確認。 * 他の建屋も含め同種の貯蔵プールにおいても、同様の事象の発生が予想される。</p> <p>溶接部におけるピンホールの発生等</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>事象による影響</p> <p>(1) 工場外への影響</p> <p>(2) 安全性への影響</p> <p>(3) 作業員への影響</p> <p>(4) 他工程への影響</p> | <p>工場外への影響は生じない。 漏えい検知装置内への出水事象であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。なお、検知装置内へ出水した水は廃液処理設備にて適切に処理する。</p> <p>安全上の問題は生じない。 プール水の漏えいは漏えい検知装置の巡視点検又は警報の発報により速やかに検知される。また、出水量が微量であり且つプール水の補給は行われているため、プール水の液位は維持されることから、安全上の問題は生じない。</p> <p>作業員への影響は生じない。 復旧作業は、定められた放射線管理計画書に従って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>他工程への影響は生じない。 使用済燃料受入れ・貯蔵施設は、独立しており他工程に影響は生じない。ただし、漏えい箇所等によって必修作業が長期間になる場合は、前処理建屋の運転に影響が生じる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>対応の概要</p> | <p>(1) 漏えいを確認した場合は、漏えい箇所を確認する。</p> <p>(2) 漏えい箇所特定後、定められた必修作業手順に従い、漏えい量の多少にかかわらず全てを必修する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>公表区分</p> | <p>夜間・休祭日を問わず速やかにプレス公表</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>情報区分*1</p> | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">トラブル情報</th> <th colspan="3">運転情報</th> </tr> <tr> <th>A情報</th> <th>B情報</th> <th>C情報</th> <th>ごく軽度な機器故障</th> <th>清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</th> <th>不適合等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | トラブル情報 | | | 運転情報 | | | A情報 | B情報 | C情報 | ごく軽度な機器故障 | 清掃・調整等で復旧可能な機器停止等 | 不適合等 | | | | | | |
| トラブル情報 | | | 運転情報 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A情報 | B情報 | C情報 | ごく軽度な機器故障 | 清掃・調整等で復旧可能な機器停止等 | 不適合等 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



復旧方法

漏えい箇所を確認し、必修により復旧

トラブル等に伴う設備への影響範囲

運転を継続しながら復旧。ただし、漏えい量が10リットルを超える可能性があるとは判断したときは、現場の他の作業に優先して必修

*1 「A情報」:安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、「B情報」:事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、「C情報」:A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象